

テスト設計コンテスト'22 OPEN クラス

アピールシート

※ 全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名

東京

チーム ID

S230404001

チーム名

テスト豆

チーム紹介 詰め込み過ぎすぎること、テストの優先度に課題を抱えた2人組です。

- ・テストコン参加を通し、テスト設計成果物の作成への手応えを掴めるようになってきました。
- ・その一方、「詰め込み過ぎてしまうこと」「限られたリソースでの効果的なテスト」に課題を抱えています。
- ・上記背景の中、決勝のお題である「テストアーキテクチャを見直して再設計」の機会を得ました。
- ・また、最近 Selenium や Jenkins を使う機会があり、これらも取り入れてみたく、挑戦してみました。

コンセプト 差別化機能を素早く届ける足掛かりを、極力、スリムな成果物で実現します。

テスト目的を、「他社との差別化のための機能アップデートへ対処すること」とし、以下のように掲題のコンセプト、テスト目的を実現しました。

- ・まず、成果物としてドキュメント化すべきことを洗い出し、内容の重複が無く、繋がりの分かり易いドキュメント体系を、絵を描きながらチームで話し合って作成します。
- ・ドキュメントの責務とつながりの絵を書き、コンセプト→考え方→モデル→ビューという構成に整理します。
- ・作るものを、「テスト観点」、「テストアーキテクチャ」、「テストケース」の3つに絞ります。
- ・テストの順番を決めることで、どんなうれしさがあるかを念頭においたテストアーキテクチャを実現します。
- ・可能な限り自動化し、自動化したものは Jenkins の緑を見れば良いようにします。
- ・その分、他をどう手動テストしていくかのテストケース作成に注力します。

工夫点

一度、文章で整理して図にする。実現可能な方法の優先を心掛けました。

- ・テスト観点の考え方、テストアーキテクチャの考え方を、スコープを広げても使えるものにしました。
- ・いきなりプレゼン資料を作らず、対話と文章化で厳密に整理してから、図で表すように努めました。
- ・テストのリスクへの対策を、回避、転嫁、低減、受容の中から最適なものを選ぶよう努めました。